



第9号（令和2年12月28日発行）伊丹市立北中学校長 升井竜雄

【2学期 終業式 各学年代表者 発表作文】

二学期を振り返って

3年3組 橋本 祐里

今年は、新型コロナウイルスの影響で、例年とは違った二学期の始まりでした。「一学期の終業式の次の日」が、「二学期の始業式」ということで、違和感がありました。二学期も、授業ばかりで進んでいくのかと思っていましたが、制限がある中でも、行事を行うことができ、本当にうれしかったです。

演技発表会では、学年の団結力を発揮することができました。私はダンスリーダーをさせてもらいましたが、「クラスの思い」や「自分の思い」、「学年の思い」と向き合いながら、一つの作品を作り出すことに挑戦しました。

みんなが気持ち良く演技するには、何が必要なのか、悩みました。しかし、クラスみんなが相談に乗ってくれ、助けてくれました。友達を信じて、苦しさや悩みを打ち明けられたことで、心がつながり、本当の団結が得られたと思います。発表の日感じた「達成感」や「連帯感」は、忘れられない思い出になりました。

あきらめていた修学旅行も、校外学習として奈良に行くことができました。「主体性」と「協働性」を養うことを目的に、自分たちで見学する場所や回る順序を考えました。当日は、その計画をもとに班で行動し、「秋が深まる・奈良の都」を満喫しました。それだけではなく、「古都」にふさわしい環境を、多くのボランティアの人たちが、守ってくださっていることにも、気づくことができました。

合唱交流会ができるようになったときは、うれしくて、テンションが上がりました。クラス全体で取り組む行事は、これだけだったので、とても楽しみでした。マスクをつけての合唱でしたが、「みんなで歌える喜び」を「体中で表現」しました。当日は、練習の成果を出し切り、どのクラスも、いい合唱ができたと思います。一・二年の時は、先輩達のすごい合唱に圧倒されていた私達ですが、やっと「三年生の合唱」になったように感じました。先生方にも、「いい合唱だったよ」と言ってもらい、誇らしい気持ちになりました。

合唱交流会が終わり、「期末テスト」や「懇談」が続き、進路と真剣に向き合う時期が来ました。三年生になって、勉強や成績に対して、意識することが増えてきましたが、なかなか結果に結び付かず、焦ることもありました。しかし、焦っても仕方がないと思います。自分の苦手な教科や分野を分析し、一つ一つクリアしていくしかありません。苦手意識をなくすためにも、こつこつ努力することが、一番の近道だと思います。私は、分からないことは、先生たちに質問をするようにしています。そうすると、分かった時の楽しさが、少しずつ増えてきて、次への意欲が出てきます。二学期に獲得した、この「自分なりのモチベーションの保ち方」を大事にして、これからも頑張っていきたいと思います。

二学期を振り返ると、この「2020年」という年を思わずにはいら

れません。「中学校生活最後の年」が、思いもよらない形で始まり、そして、過ぎていこうとしています。二学期の大きな行事が、例年通りには、行えず、どれだけ残念だったことか……。部活動でも、「後輩たち」が「新人戦」で活躍する姿を、「見ること」も、「応援すること」もできませんでした。

しかし、諦めていた行事が、縮小の形であっても、実施されたことで、「やる気」と「学年の熱さ」が戻ってきました。気持ちの切り替えは大変でしたが、「大切なこと」に気づかせてくれた二学期でした。

多くの人たちが、私達に期待を寄せ、応援をしてくださったこと。この状況の中でも、不満を漏らさず、いつも前向きで、明るく過ごしている同級生がそばにいてくれたこと。先生方や仲間の温かさを痛感しました。また、三年生の一人ひとりが、これまで培い、蓄えてきた力を、学習やいろんな「表現の場面」で発揮できたことも、学年の自信につながりました。

私達には、共に過ごしてきた「HOME」があり、「かけがえのない仲間」がいます。今、受験を前に、私たち一人ひとりが、やるべきことを見極め、仲間と支え合いながら、「ひたむきに」努力を続けていきたいと思います。「疲れたら休み」「頑張るときは頑張る」。メリハリのある生活をし、コロナに負けない「強い体と心」で、進路実現を目指して、新しい年を迎えたいと思います。

二学期をふり返って

2年5組 三浦 理人

今年の二学期をふり返ると思っていたよりも充実し、成長できた学期だったと思います。

まずは、「演技発表会」

去年は、体育大会という名前で、学年種目や個人種目、生徒会種目などたくさん思い出ができました。しかし、今年は中止になるとの発表がありました。状況的に厳しいのは分かっていましたが、やはり残念でしかたがありませんでした。のちに演技発表会ができることになり、縮小されましたが、学年のみんなの一つのことに取り組めることがとても嬉しかったです。演技の練習中も分からないところは友だちと教え合ったり、休日にも縄跳びの練習に励んだり、一生懸命取り組みました。本番では、一体感が感じられて、とても良かったです。このような状況の中で、何かに、みんな、全力で、取り組む機会が少なかったのも、本気で取り組むことの大切さを改めて実感しました。また、本気で取り組める場があることにも、感謝できるようになりました。

次に、「ワンデイトライやる」

一年生のころから取り組み、楽しみにしていた行事でしたが、やはりこれもコロナの影響により予定通りとはなりません。しかし、校内に地域の講師の方々が北中にきてくださり、特別講座を受けることができました。十二講座ある中で、ぼくは「ヨガレッスン」を選びました。今まで一度もヨガはしたことはありませんでしたが、とても楽しく、よい体験をすることができました。

最後に「校外学習」

班別活動で、神戸の街を回りました。ポートタワーや風見鶏の館、ハーブ園などに行きました。一番印象に残ったのは「南京町」です。もともと行

裏面へ続く

きたいところだったので、行く前からとても楽しみにしていました。実際行ってみると想像以上の中華街で、料理がたくさん並んでいて、見ているだけで幸せでした。トルコアイスなどもあって、次はプライベートで行きたいなあと思いました。他にも昼食がおいしかったり、ロープウェイからの景色が綺麗だったり、おもしろ写真が撮れたり…思い出がたくさんできました。この行事では班で協力し、公共のマナーや時間を守ることを学ぶことができました。このことを修学旅行やこれからの生活でつなげていきたいです。

部活動では、バスケをしていますが、新人戦や練習試合を経て、先輩や活躍している仲間のすごさを感じています。もっと練習し、部活動でも力をつけて行きたいです。

制限がかかる中での、二年生の二学期は、できる範囲で最大限充実し、成長できたと思います。三学期は、進路学習でも言っていたように「三年生0学期」です。自分で課題を見つけ、学習を進めていきたいと思います。そうして、何事にも本気で取り組み、みんなから信頼される人や学年になっていきたいです。

二学期を振り返って

1年2組 横田 卓音

二学期はいろいろな行事やテストもあり、大変なこともあったけれど、楽しかったです。

僕は前期に引き続き委員長をやっています。委員長の仕事は号令、学級記録チェック、行事の企画運営など、とても大変ですが、いつも「委員長」と頼ってくれたり、行事が成功したときはとてもうれしく、やりがいを感じる事ができました。

今年にはコロナウィルスの影響で本来あったはずのSAKURA合宿や 体育大会、学習発表などがなくなるかと思われていましたが、演技発表会や合唱交流会に代わり、実施されることになりました。はじめての行事でしたが、残念だった気持ちも吹き飛ばぐらいうれしい思い出になりました。SAKURA合宿では学年委員として約一ヶ月前からスローガン案、旗デザインなどの準備をしていました。僕は当日点呼やいかだレース開始式の司会などをしました。開会式の司会はあまり緊張はせず、ただ成功させたいという一心で司会をしました。悪天候のため、レースはできなかつたけれど、インストラクターさんが「本来、この琵琶湖の状態ではいかだは出さないけれど、毎年来てくれている北中のために出しました」とおっしゃいました。僕はそれを聞いて、感謝するとともに、伝統や人と人つながりの大切さを実感しました。

今年にはコロナ渦でことあるごとに例外的な事が多く、先生方はとても大変だと思います。それでも、生徒のためにいろんな経験をさせてくれました。本当に感謝しています。その行事を通して、学年、クラス、そしてひとりひとりの課題がわかったと思います。その課題をクリアしていくために、委員長としてクラスをメリハリのあるあったかいクラスにしたいと思っています。そして学年全体も「さわやか全力あったかい学年」にするために全力を尽くしたいと思います。